

はじめに

現在の日本には、人口減少や高齢化、地球環境などの問題が山積しています。これは日本全体の問題であり、鉄道にも大きな影響を及ぼします。人口が減少し、高齢化が進むことで人々の移動が減少する可能性があります。また、環境意識の高まりを受けて、環境に対する負荷をより一層軽減することが求められています。このような問題は鉄道に限らず、様々な分野で生じていますが、いずれにしても悲観的な将来しか存在しないかのような印象を受けます。

しかし、そのような変化を詳しく見てみると、鉄道においてはまだ改善・成長の可能性が残されている分野がいくつか存在します。そのいくつかの分野の中の1つが、今回の研究テーマである都市間輸送です。日本の総人口は第2次世界大戦終了後から増加の一途をたどってきましたが、現在では減少する傾向にあります。しかし、地域別の人口を見ると、東京や大阪、名古屋などを中心とした都市部では人口は増加しています。つまり、地方から都市へと人々が移動して人の集中が進んでいるのです。この要因としては様々なことが考えられますが、都市へ人や資本の集中が進むことによって、都市の重要性が高まることが考えられます。

都市に人や資本が集中すると、その資源を活用して日本の成長に結び付けていくために、それらを効率的に結び付けるネットワークが必要となります。都市間の人の移動手段としては、鉄道・バス・航空が挙げられます。しかし、現時点ではそれらのネットワークが十分に機能しているとはいえ、様々な資源の潜在的な可能性が発揮されていないのが現状です。

今回の研究では、そのような現状を考察した上で、今後の都市間輸送における鉄道のあり方を、その競争相手であるバスと航空の現状・今後を踏まえた上で考えます。

本研究誌は4つの部から構成されています。第1部では人口動向の変化から都市間輸送の重要性が高まることを予測するとともに、国土交通省の政策

を運輸政策審議会の答申や『国土交通白書』を通じて概観し、政策的に都市間輸送がどのように捉えられているのかを見ています。第 2部では都市間輸送における鉄道を考察しています。ここでは、在来線と新幹線に分けて、それぞれの都市間輸送において果たしてきた役割、現状を取り上げています。第 3部では、都市間輸送において鉄道の競争相手となるバスと航空について、その概要に触れた上で鉄道との比較を行います。また、ケーススタディとして東京 - 大阪間、札幌 - 函館間を取り上げて、実際の都市間輸送がどのような状況にあるのかを考察しています。第 4部では都市間輸送の行方について取り上げます。まず、鉄道の今後として超電導リニアモーターカーとフリーゲージトレインを取り上げるとともに、バスと航空の今後注目されるトピックについて紹介しています。そして、都市と地方の人の流れを改めて考察した上で、鉄道が都市間輸送において果たすべき役割を考えています。

なお、研究のテーマは都市間輸送ですが、都市間輸送はその取り扱う範囲が非常に幅広く、そのすべてを取り上げることは難しいため、今回はその範囲を絞って研究を行いました。すなわち、本研究誌では 5都市（東京・名古屋・大阪・札幌・福岡）を基点とした都市間輸送を念頭に置き、貨物輸送は除外して旅客輸送に限定しています。また、都市間の移動手段として夜行列車と船舶も考えられますが、前者については需要の減少などによって削減が進み、今後もその傾向が続くと考えられるため、後者については、運行区間が一概に都市間といえないことに加えて、所要時間などの面から鉄道との競争が考えにくいために、今回の研究の対象外としています。また、都市間輸送においては政策的な介入も重要な役割を果たしていますが、今回は経営的な面に着目し、政策的な面については必要な部分のみに触れています。

今回の研究によって、都市の重要性が高まる中で今後の都市間輸送はどのようにあるべきなのかについて、みなさんに考えていただく機会となれば幸いです。

2008年 11月 1日
一橋大学鉄道研究会